

大震災寫真報

第三輯

〔刊增時臨日朝刊週〕
可製物便郵刷三第



を兒病の災罹に院病社字十赤くし親下隆后皇
日十廿九のるらせらあ問慰御

社聞新日朝阪大

6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100

始



朝日新聞
東京の通信は絶望

本社の飛行機は 東京全市の大混乱を 視察速報の爲に

一機は濱公園

攝政宮殿下は九月十六
十八の二回に亘つて具
さに東京災害の状況を
御巡視あらせらる

並募集

毎日新聞
朝日新聞
なる諸官廳
大藏文部省焼



活生トンチの者災罹に場廣前城宮

天から降ったつ龍の雷
九月一日午後三時より五時に至る新橋
の雷風は傾らねて千代田西側一帯に
降りし激風の感わすにして船橋附近
は是等の降風の爲め庭内一掃除するの
止むなきに至りぬ、中には時折同様の
レキあり小切あり、中には時折同様の
小生の密地内に降りしもの、中に面白
きもの一つたり、雷の聲に引いて海
上を駆けつたる雷の聲は時折さ
れ雷の生きたかへたるも面白から
ずや、在船橋近郊に於ては雷が八少
少なり本報員は驚愕して既述する
私情の一節

てしと然儘し服征もを災火害業
(敬慎) 際ケーダンヤジつ立

灌漑機の後震る漲氣の慘陰

灌漑機の後震る漲氣の慘陰



變り果てた神田須田町。萬世無疆の光。



震度を想はせる芝山内。女を乳し崩れた石垣。



姿の前災町田須たれさ稱と地の軌福通交都帝



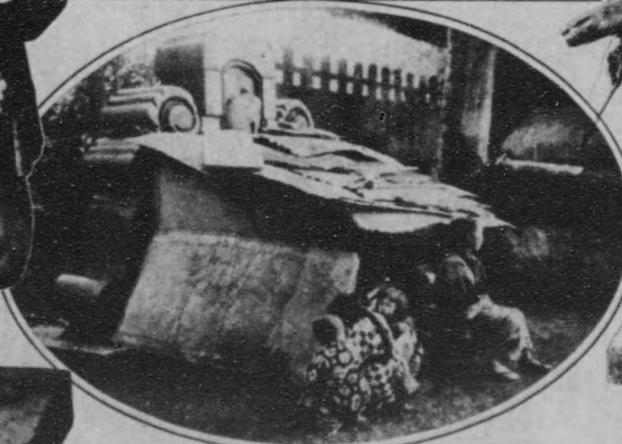
夏尔近町可神橋水口一き播灰のり冠様姉

都に西政や理整跡け機一前金廳市府京東 たつ残け焼
難人たせ皆し押に基地人信。る望が平人いしだ



下一詔大日七十月七辰年元治明 都儀京東
造期築 敷日十二月九一たつなと京東は戸江てし
假署御京東日三十月十ひ給せさて出りよ門牌

朕今萬機・親裁し億
兆、綏持し江戸東國
第一大鎮四方幅濶
地宜し親臨以て改
視し回し自今江戸、
稱し「東京」と是朕
ノ海内一家東西視
ス。所以より衆庶此志
ヲ體セヨ
辰一月
詔書



内附物寄室寄野上一層小假を瓦大城戸江

たれは災を火燬くふ危
者表代大ニの設創戸江大
府京東一象設家川橋さ難屋田大
たつ立に口入編女大會市

村クツラバの内園公谷比日



クツラバ園公谷比日た見らか上機行飛
観總村
く後を富雨てつたさ屋小標道今は東京の安敷民市



木クツラバ
へ東京を材
一途急らか坂大

民國小れ哀



生徒生校學民園で園公野上除掃路道の仕奉



(園公野上)兒所託料無の寺願本草淺



おちさん！
僕にも
あたいにも



園に校學中一第)幕の秋るべたびすむおの子ひ遊
(谷秋所標款標)



らか先難者一ひ推しさ



兎も角も交通整理

京の相互ビル崩壊より南區區町交路を見る

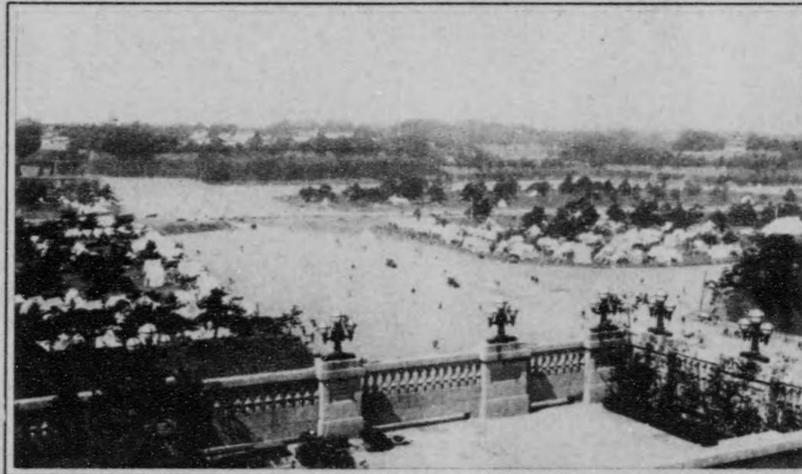
可現尾座一査巡通交に點又交



點又交町尾座一査巡通交の下令警成一人し運る光銃銃



まさトンテ・板橋・戸雨・ンタト
し領を面力草獲らか町谷入一屋假のまさ

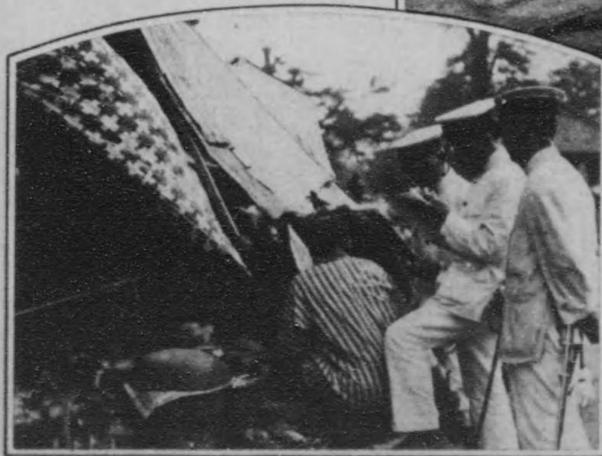


宮城前のキャンブ生活一強運を夜冷へ露に
丁所けた北東町館の上から
望む日本海



明治神宮外苑に難民者
の住み小屋

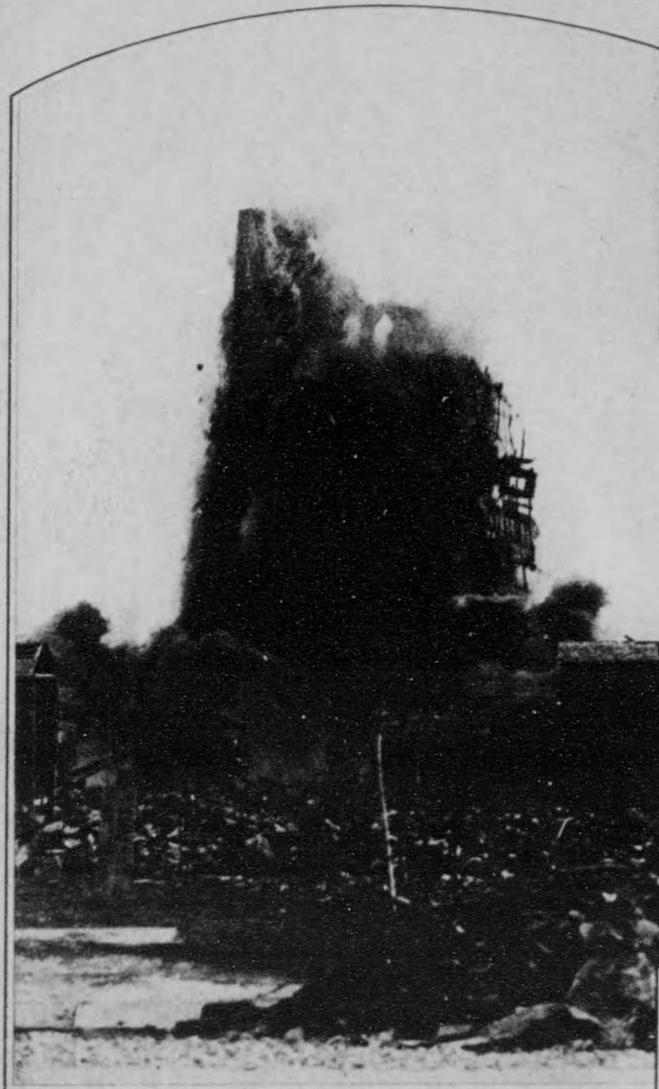
明治天皇御覽
したるゆゑのよきことにあ
してあかたぬ人をこそよもへ
家なしと思ふ方にも火災のかけ
戻りそめて日は暮れにけり



假小屋の戸口調査



夕陽の仕度
(日比谷公園・ラック村)



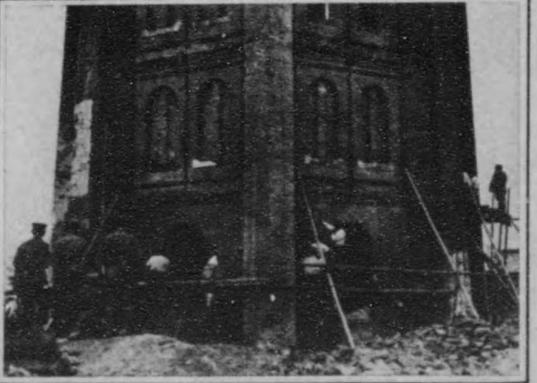
那利の破壊階二十



園公草淺の断不跡人



階二十の後災と跡燒の區六草淺



填充の要火一業作破壊兵工の階二十



十二階爆破の跡



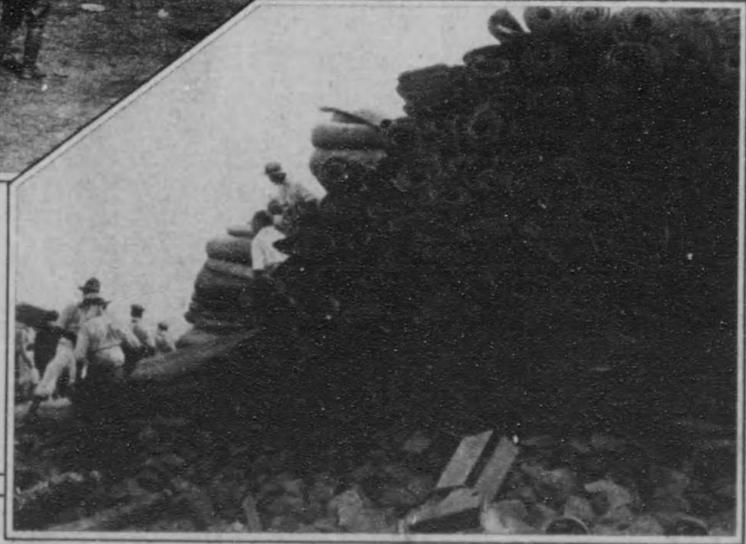
(補芝) 穂 米



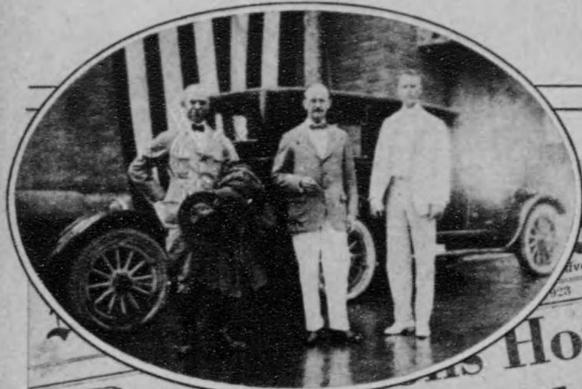
山の品恤救
山のゴツケバ付たれか築に内蔵レテホ國帝



(補芝) 結 鐘



(補芝) ラベンア



Tribune
LATE CITY EDITION
Published daily except on Sundays and public holidays.
Price: Five Cents.
Subscription: One Dollar a Year in Advance.

10 Dead, 100 Homeless in Japan; Tsunami and Fire Level Tokio and Yokohama

Typhoon and Tidal Waves Spread Disaster; Other Cities for Fifty Miles Around Razed

Palace Is Burning, Regent Is Safe

Japan's Wrecked Capital



U.S. Rushes Ships to Aid Relief Work

Washington Anxious Over Safety of Embassy at Tokio and American Hospital at Yokohama

Red Cross Officials Confer With Consulate Today on Sending Supplies

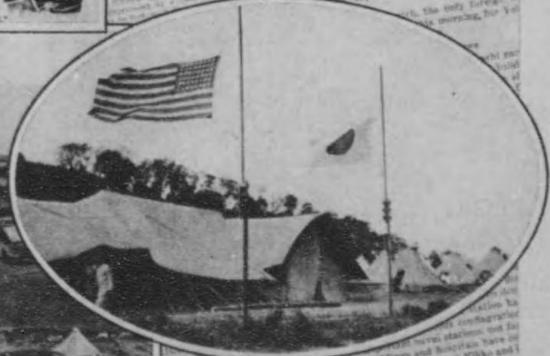


米國赤十字救護隊

(向つて右より)ラングホン大佐米救護隊代表、マコーイ少将、ヒリツビン少将、代理マンソン大佐(左より)米救護隊のバン橋、山田、町、六、七、ヒリツビンから救援の看護婦(中)米國救援隊のテント(右、左、下、下、下)



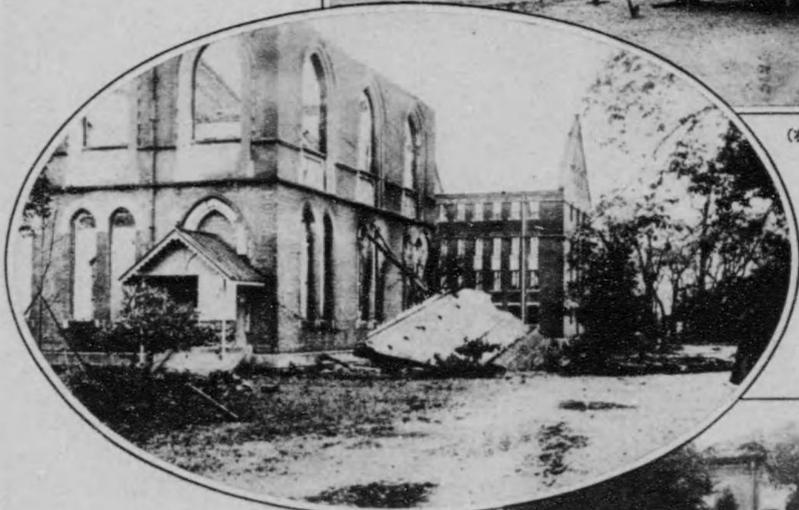
War in that... Thousands of foreigners in panic... At Yokohama the fire started in the business district... The only foreign... in the morning, the...



東京近郊を通過した
紐育トリビュン紙 九月三日第一面十萬人は死し
数百万人は家を失った東京、横浜共に大規模な大火、大津波を
掲げ、破壊された日本の惨状を説明して挿入してある。



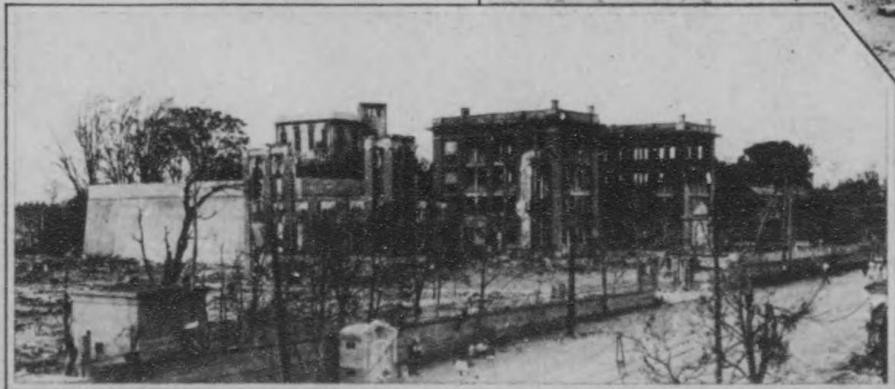
(右)部一の窓(左)船會水如 學大科商たけ焼



鉄路の船會以大帯一巻萬十七書圖重貴惜可
る私動運轉移外郊の大帯りよ上の浪思りよ上の津浪危



跡の境全學大治明

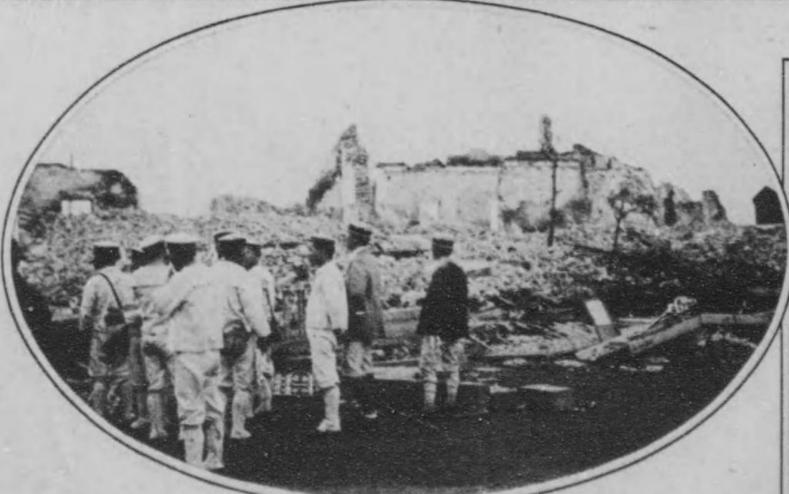


堂講と門正學大田稻早
破壊の

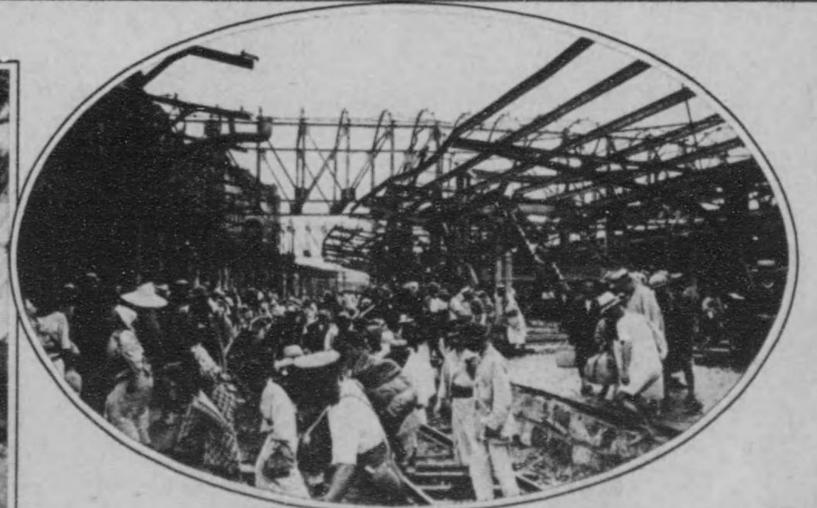


焦土の横濱全市
 上は山の手方面下は海岸寄り

横濱港の惨状



横濱港の惨状
 一列の船隻が沈没した様子

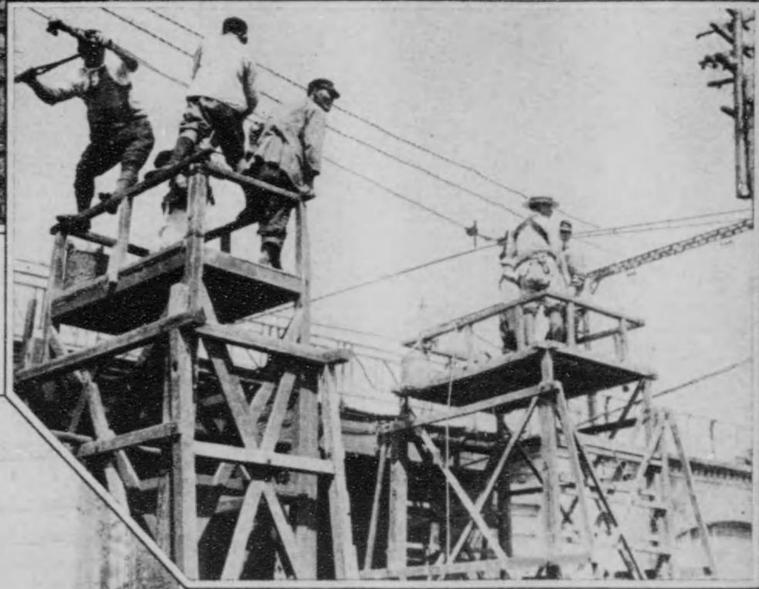
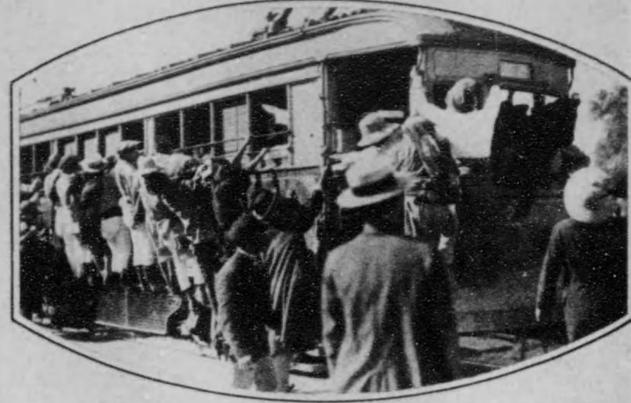


骨のなみにつらつらしたムートツラフ



むらぎを破壊の越三一近附橋岸河西めか届の手たま

電市京車ため始を特運にか係一車電り生餘の人

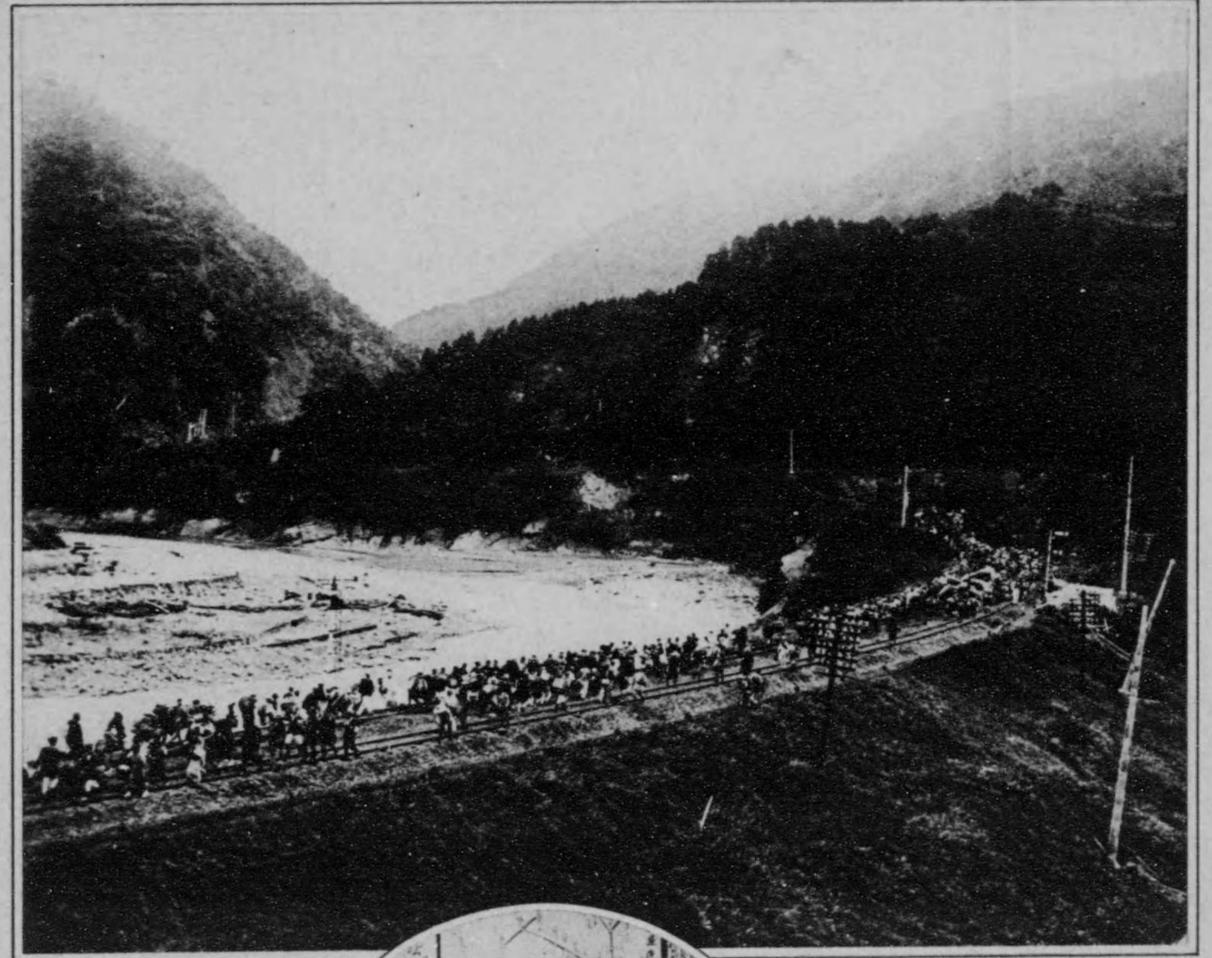
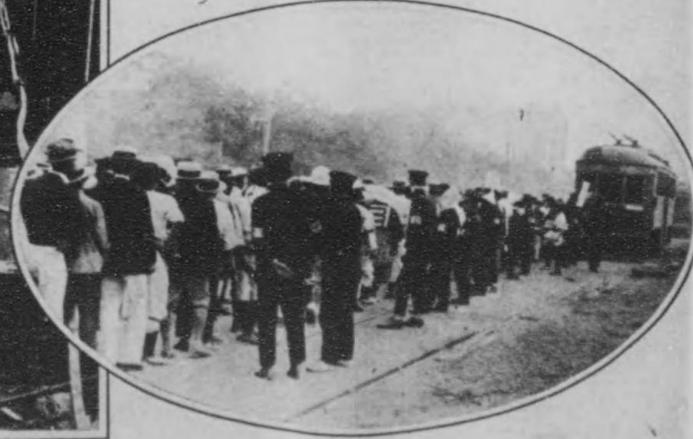


事工蓄復の線車電



製作の橋兵工一橋妻吾く急を事工蓄復

(近附谷止日)陣の蛇長客乗電市



絡連歩徒の間噴谷北山線道海東
(川勾道は方左)

(解京東)々人る案に前の板示掲



(東京)口礼改者誰送



東海遠線徒歩連絡の大混雑一場入川吉
(鳥羽川橋架設中)



大坂港に上陸した被災者



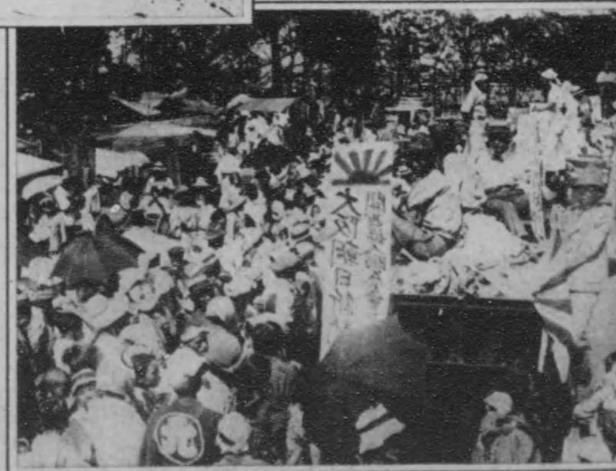
おも湯道場 内務省調査研究所は高野聖にも湯の供給を命じた



無助に負傷した避難民の一人を前に助けようとする者



遺体運搬を歩く死傷者



大坂市日野町に被災者避難所を開設する中、被災者は品物のため、被災者連合会が被災者連合会を組織した



崩壊した大坂市日野町の被災者連合会



建設第一線としての破壊

工兵隊の破壊作業により大規模の取片づけ

数手にけづ片跡でし跡に壊れく完
應箇の店眼災屋板松い、なけかを



破壊面側の巻丸



備壊破壊の省阪大



通信省の焼燬



山梨戒嚴司令官鮮人に訓示をなす野野野



火攻め水繰りの東京(深川江野野野)



野外小國民學校(野野野)

堂音觀草淺たれ免に火へ耐に塵
—は影で者定ひ影店感に罰草—



觀音堂内陣

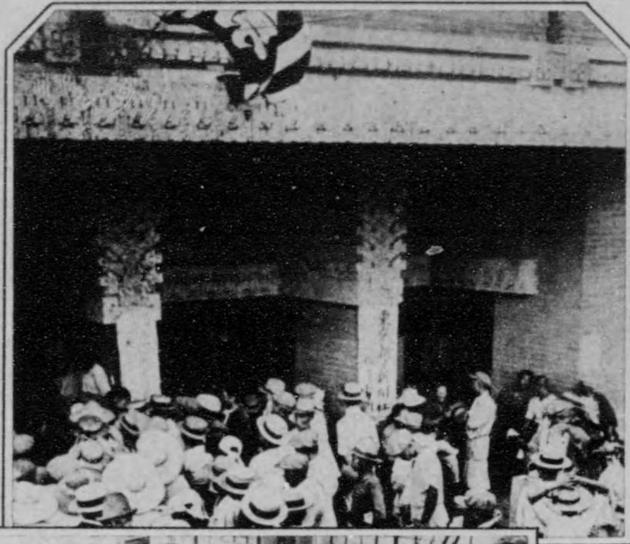
寺願本草淺一たし遊をアアラバ



秋の
常長一
思ひ
...

懐念の人上佛句
齊家は防浪光谷大人上佛句主法寺願本草
寸應に願款者災囃悲西

本社「報災」を求め、人が各埠頭ホテル内東京
朝日新聞社所に集まる



東京市立移動市場



十日出で箱一箱行郵七十七高を印別男の製
「報災」の「大報」(大報)の「報災」の「報災」



蒲團屋が出来た(下行方面)

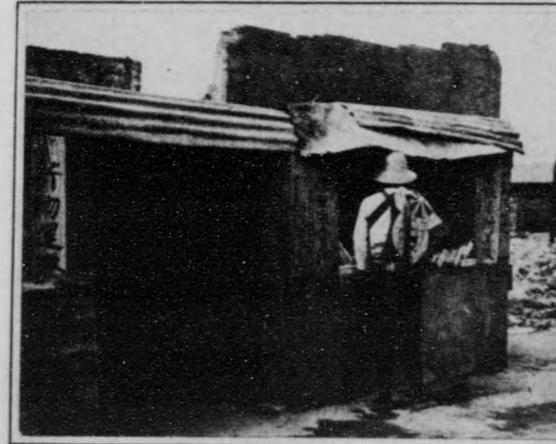
古新とロボ店
(芝門にて)



子供のスマウス



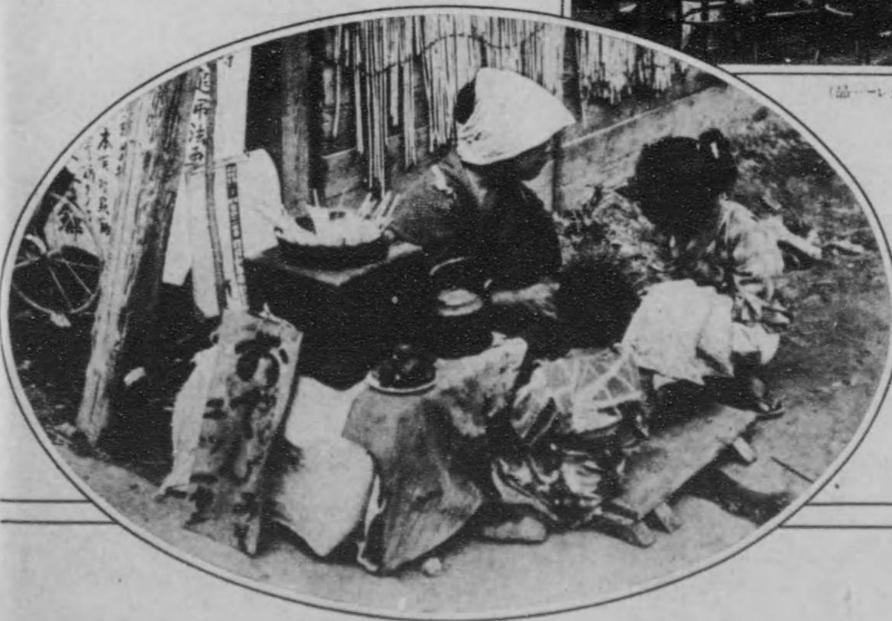
「バツラモ」(下谷)の市場



「ルビ」の煙草店(雨)の近



「天露」の「田」(田)の「カ」(カ)



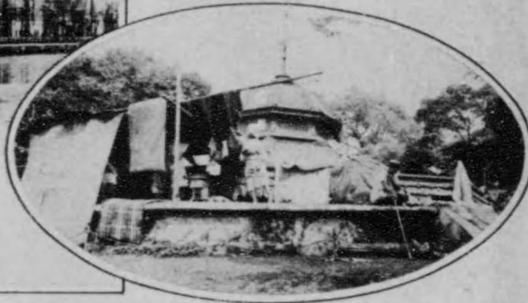
きの子で安住持の安さん今日
は遊ばせてあげよう



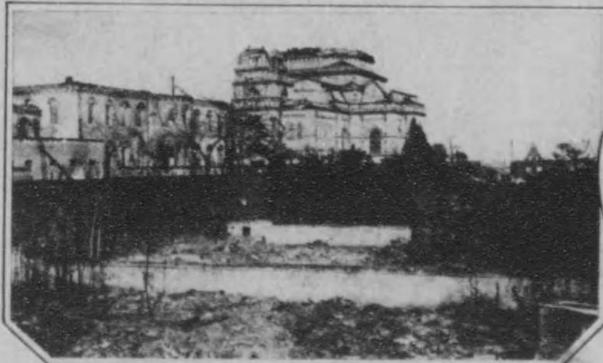
(京東の的災) 影西の其たつたと出ひ思は今
歴観聖と聖廟皇帝内の丸



たつたと出ひ思の其たつたと出ひ思が堂樂音の園公谷比日



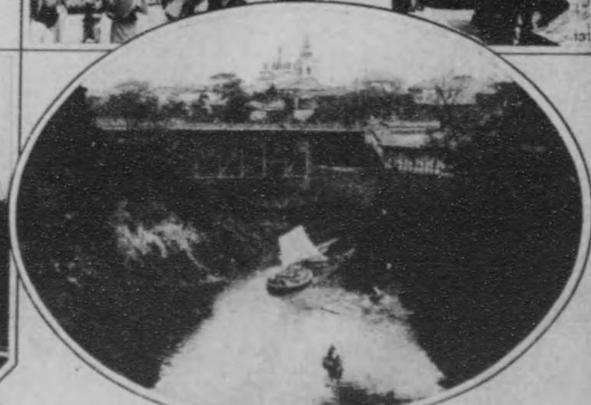
橋本日心中の都帝



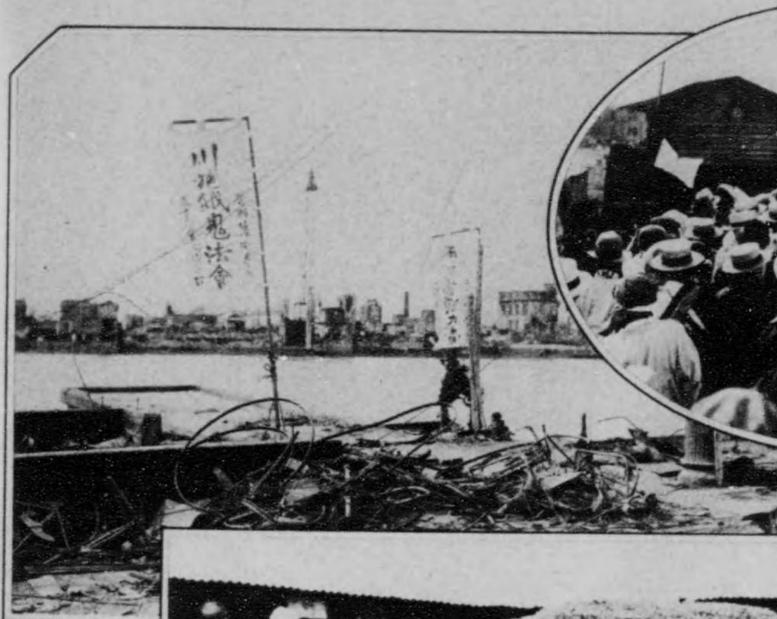
寺の山を聖廟のそは今4堂會イラコニ所名京東い古



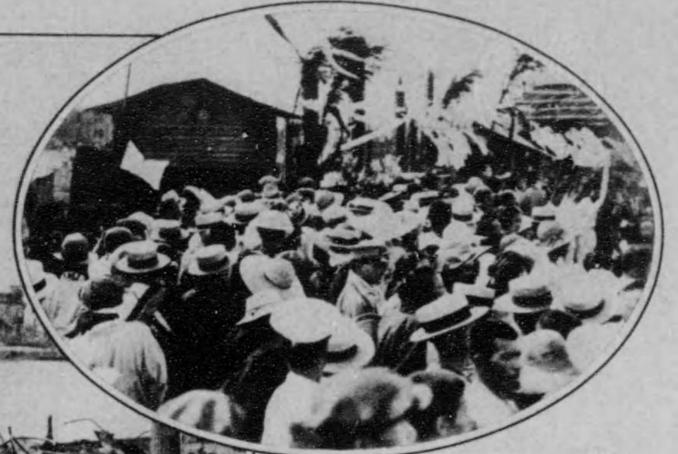
昌繁の世見仲前管観草淺



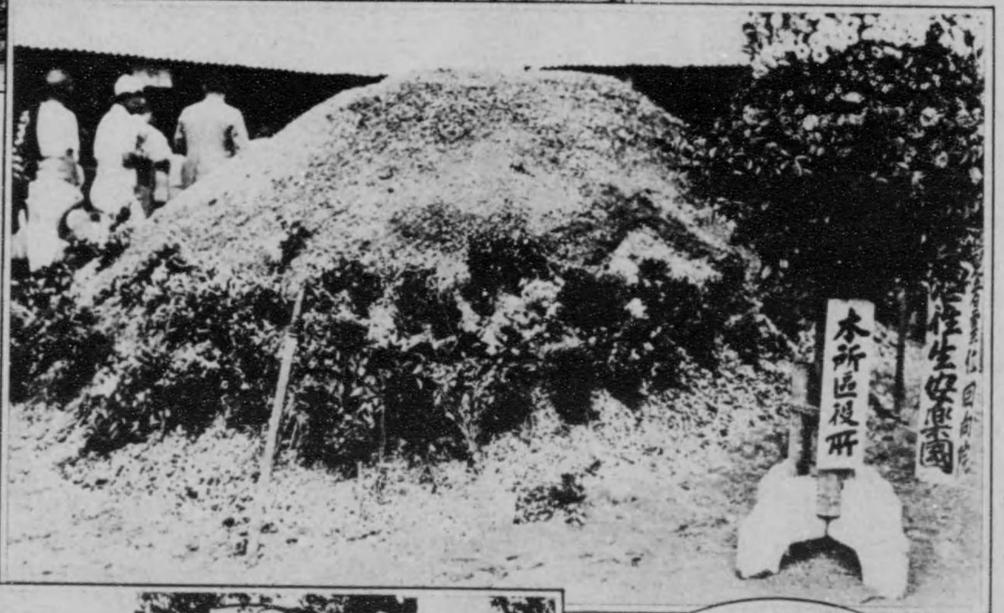
景イラコへの墓河破と流清水の茶お



大川端の川流儀現 書信は民及方皇



新設の所本一衆群の香燭に會法悼追



燒死者骨灰の山 一所所に數段の屍骨を出し大餘事が觀揚の都市計得は考
の字なる施設は現を未だに助きて靈非生靈の教主となる
の言葉に於て其の痛切である



寺人の聖供と堂骨納の形遊儀吉



(動物聖私) り費花のけ向手

終